



## 広げよう「チョボラ」活動！

部長 松本安博

街の並木も色づき、秋の深まりを感じます。今年はどういうわけか、インフルエンザの流行が例年より早いとのニュースが流れています。初等部では、日頃より遊びや清掃、トイレの後、昼食前など、石鹸での手洗いとうがいの励行を促しています。ご家庭でも手洗いとうがいの習慣形成をよろしくお祈りいたします。

秋晴れのある日、私が澄み切った青空のもとで元気よく中休みを楽しんでいる児童の声に誘われて、グラウンド周りを歩いていたところ、プール棟の方から3人の児童が、大きなビニール袋に落ち葉をいっぱい入れて駆け寄ってきました。私ははじめ、色づいた落ち葉をみて、何かの学習に使うのかと思い、尋ねましたところ、「チョボラ」をやっているとの返事が返ってきました。聞き慣れない言葉でしたので、よくよく聞きますと、「チョボラ」は、「ちょっとしたボランティア活動」の意味であることが分かりました。

私は、他にもどんな「チョボラ」に取り組んでいるのか知りたくなり、再度尋ねましたところ、ボランティア委員会の呼びかけで、やれる人が、やれるときに、やれることをやっているとのことでした。ですから、いつも同じメンバーかどうかは分かりませんが、落ち葉拾いだけでなく、時には本の整頓なども行っていると話してくれました。

ボランティア委員会の呼びかけと聞いた私は、あまりの嬉しさから、早速初等部校舎2階の委員会活動の掲示版（昨年より2階廊下の両端に設置）を見に行きました。そして、各委員会の10月の目標や活動がまとめられている掲示の中から、ボランティア委員会の名を探しました。ボランティア委員会の目標や活動の欄には、次のようなことが書かれていました。

1人ひとりが「チョボラ」を行なえるようにします。6年生は1年生とボランティア活動を一緒にし、「チョボラ」を広めようとしています。

また、初等部校舎の東側の階段には、いつからか、マナーについての呼びかけのポスターが掲示してあります。これも聞きますと、代表委員会の児童の発案で行われているとのこと。



【階段傍の壁面掲示より】

そして、最近になって、朝の正門では、当番の先生と高学年の有志の児童が、登校してくる児童や生徒に笑顔で爽やかな朝の挨拶をしてくれている光景によく出会います。

建学の精神のもと、高度情報化とグローバル化が進む未来社会を、志高く夢と希望をもって、自分らしく自主自発的かつ創造的に生きていく初等部生の育成は、初等部の願いです。

私たちの周りには、いろいろな見方や考え方があります。それらを気にし過ぎたり、勇気もてなかつたりして、美しく温かい心や人として当たり前の善の行動が押し潰されそうになるときもあります。しかし、それらを跳ね除けて、自分たちのことは自分たちでより良くしていこうとする姿勢は、「生涯におけるの自らによるより良い自分づくり、時には人の助けを得て、時には人を支えながらの自分づくり」につながるものです。

これからは家庭との連携と協力のもと、確かな学力とともに、本来の教育の目的である人間形成、その素地形成にも意を注いでまいりたいと思います。